北海道の建設業景況調査

（2021年度第4回・1月～3月）

□調査の概要

＜調査目的＞

北海道の建設企業の経営動向調査を行い、建設業のおかれている状況を総合的に迅速かつ的確に把握することを目的としています。

＜調査時期＞

毎年 ６月、９月、１２月、３月

＜調査対象＞

当社と取引関係にある建設企業の中から、地区別、業種別、規模別の分布状況を考慮して、建設業の経営動向を反映するに足りると認められる企業を対象としています。
2021年度第4回調査の回答企業数は242社（調査対象257社、有効回答率94.2%）です。

業 種 別	回答企業数	完工高別	回答企業数
土　　木	117	3億円未満	33
建　　築	26	10億円未満	63
土木・建築	68	30億円未満	98
設　　備	31	30億円以上	48
合　計	242	合　計	242

＜B.S.I.とは＞

この建設業景況調査は、景気等に関して個々の建設企業の意識調査を行ったものです。この意識調査の結果を数値化して表したものが、B.S.I.（ﾋﾞｼﾞﾈｽ･ｻｰﾍﾞｲ･ｲﾝﾃﾞｯｸｽ＝景況判断指数）です。

＜B.S.I.の求め方＞

集計結果から、以下の方法によりB.S.I.が求められます。

【回答企業構成比】

（景況調査集計）		（B.S.I集計）	
良　い	10%		
やや良い	15%	良　い	25%
変わらず	45%	変わらず	45%
やや悪い	20%	悪　い	30%
悪　い	10%		
合　計	100%	合　計	100%

B.S.I.＝([良い]と回答した企業割合－[悪い]と回答した企業割合)×1/2
＝(25－30)×1/2
＝ △2.5

□概観

[前期]-2021年10月～12月、[今期]-2022年1月～3月、[来期]-2022年4月～6月(見通し)

項　目（※印は季節調整項目を示す。）			B.S.I.値の傾向 ﾌﾟﾗｽの傾向 / ﾏｲﾅｽの傾向	前　期 B.S.I.値	今　期 傾向と推移（前期に比べた今期の状況）	今　期 B.S.I.値	来　期 傾向と推移（今期に比べた来期の状況）	来　期 B.S.I.値
(1)業況等	地元建設業界の景気※		良い / 悪い	△ 10.0	悪い傾向が続いている	△ 10.0	悪い傾向が強まる見通し	△ 15.5
(2)受注	受注総額※		増加 / 減少	△ 14.0	減少傾向が続いている	△ 12.5	減少傾向がやや強まる見通し	△ 16.0
		官公庁工事※	増加 / 減少	△ 13.0	減少傾向が続いている	△ 12.0	減少傾向がやや強まる見通し	△ 14.5
		民間工事※	増加 / 減少	△ 12.5	減少傾向がやや弱まっている	△ 10.0	減少傾向がやや強まる見通し	△ 14.5
(3)資金繰り※			容易 / 厳しい	3.5	容易傾向がやや強まっている	6.0	容易傾向が弱まる見通し	1.0
(4)金融	銀行等貸出傾向		容易 / 厳しい	8.0	容易傾向が続いている	7.0	容易傾向が続く見通し	6.5
	短期借入金※		増加 / 減少	△ 2.5	減少傾向が続いている	△ 1.5	増加傾向と減少傾向が均衡を保つ見通し	0.0
	短期借入金利		上昇 / 下降	△ 0.5	上昇傾向と下降傾向が均衡を保っている	0.0	上昇傾向に転じる見通し	0.5
(5)資材	資材の調達※		容易 / 困難	△ 16.0	困難傾向がやや強まっている	△ 19.0	困難傾向がやや強まる見通し	△ 22.0
	資材価格		上昇 / 下降	31.0	上昇傾向が続いている	30.0	上昇傾向がやや強まる見通し	34.0
(6)労務	建設労働者の確保※		容易 / 困難	△ 21.0	困難傾向が続いている	△ 20.5	困難傾向がやや強まる見通し	△ 25.0
	建設労働者の賃金		上昇 / 下降	17.5	上昇傾向が続いている	18.0	上昇傾向が強まる見通し	27.0
(7)収益※			増加 / 減少	△ 16.0	減少傾向がやや弱まっている	△ 13.0	減少傾向が強まる見通し	△ 18.0

□B.S.I.(ﾋﾞｼﾞﾈｽ･ｻｰﾍﾞｲ･ｲﾝﾃﾞｯｸｽ＝景況判断指数)の推移

地元建設業界の景気(B.S.I.季節調整済)

受注(B.S.I.季節調整済)

資金繰り･短期借入金(B.S.I.季節調整済)

収益(B.S.I.季節調整済)

□回答企業の構成比

[前期]-2021年10月～12月、[今期]-2022年1月～3月、[来期]-2022年4月～6月(見通し)